

地域医療連携室だより

～ 第 12 号 ～

大阪市立十三市民病院

地域医療連携室 室長 挨拶

立春とはいえ寒さが続いておりますが、貴院におかれましては益々御盛栄のこととお喜び申し上げます。この連携だよりが先生方の手元に届く頃には、平昌オリンピックが開催され、日本代表選手達が期待に応え、熱い戦いを繰り広げてくれていると思います。

さて、当院における昨年の大きな取り組みは、7月から開始した三国地区と当院を循環する患者無料送迎バスの運行と9月にHCUを開設したことであります。患者無料送迎バスについては、利用者も徐々に増加しており、三国地区での運行が軌道に乗れば、他の地区での送迎バス運行も視野に入れています。HCUは施設基準を満たす重症患者のみ入室して頂いておりますが、利用率は約80%で順調な運用がなされています。本年もバスとHCUのご利用にご協力願えれば幸甚です。



地域医療連携室長 倉井 修 副院長

それでは次に、本年当院で予定している取り組みを御紹介いたします。

【今年の取り組み①】24時間 365日内科系二次救急開始

4月より、内科系二次救急医療機関として24時間365日救急対応を行う予定です。地域医療支援病院の指定基準である紹介率50%以上、逆紹介率70%以上および年間救急車搬送数1,000件以上を目標とし、地域に貢献する急性期病院としての医療機能充実を図ります。

【今年の取り組み②】がん医療の充実

現在も取り組んでいるがん診療機能の更なる充実に努めるとともに、緩和ケアチームによる緩和医療の提供を推進し、がん患者および家族の相談・サポート体制充実のためにがん相談支援センターを設置します。

【今年の取り組み③】チーム医療の推進

既存の医療チームの活動強化とともに、今後ますます増加が予想される高齢入院患者に対応するため、認知症サポートチームと排尿ケアチームが始動します(各チームの詳細は本号のチーム紹介を御覧ください)。

地域医療連携室では、これらの取り組みを常に念頭に置きながら、患者受入れ、退院支援、その他様々な支援および広報活動の強化に邁進していきたいと考えておりますので、今後ともどうかよろしくお願い申し上げます。

●患者送迎バス(無料)のご案内

停車場	運行時刻
阪急三国駅(南出口高架下)	08分 38分
三国本町3丁目(セブンイレブン付近)	12分 42分
西宮原3丁目(宮原中学校東南角付近)	14分 44分
西宮原1丁目(愛媛銀行付近)	16分 46分
三国本町1丁目(ダイソー付近)	18分 48分

※患者送迎バスの運行時間帯 8時～14時(但し12時台は除く)

※道路事情・その他の事情によりバスの到着が遅れることがあります。



排尿ケアチームの紹介

泌尿器科医師 安達高久

日本は世界一の長寿国となりましたが、最後まで自立して排泄を行うということは、すべての人の望みであり、また個人への尊厳でもあります。一方で高齢者の多くは排尿に関し、おむつやカテーテル管理を余儀なくされているのが現状です。このような状況下において、排尿自立指導料が平成 28 年より保険収載となりました。

これは保険医療機関に入院している患者さん、特に尿道カテーテルを留置している患者さんが、カテーテルを抜去し自力で排尿管理(排尿の自立)ができるように包括的排尿ケアを行った場合に診療報酬を算定するというもので、国が排尿の自立およびそれに対する医療・ケアというものの重要性を認めた画期的な出来事であります。

そのため当院では昨年 9 月より排尿ケアチームを立ち上げました。ケアチームは泌尿器科医師、指定の研修をうけた専任看護師、理学療法士(作業療法士)、および各部署のリンクナースで構成され、

- ①カテーテルに関連した下部尿路機能障害の患者さんの抽出
- ②患者さんの情報収集と評価(排尿日誌、残尿測定など)
- ③包括的排尿ケアの計画作成
- ④実際のケアの実施(排尿誘導、動作訓練、薬物療法、導尿指導など)

を行います。現在は外科、泌尿器科のある 6 階病棟内での排尿ケアチームの活動がやっと始まったばかりですが、今後は病院全体として排尿ケアに取り組み、また地域の先生方の要請にも対応できるよう活動を整備し広めていく予定でございます。何卒よろしくお願い申し上げます。

認知症ケアチームの紹介

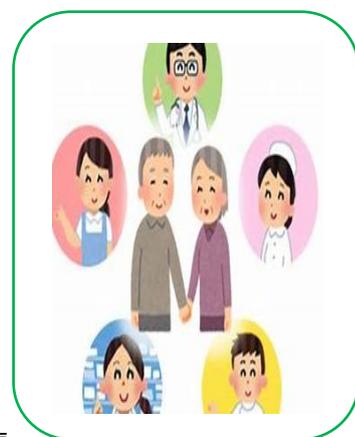
認知症看護認定看護師 江口啓子

2025 年には、認知症高齢者が 700 万人を超えて 65 歳以上の約 5 人に 1 人に達すると推計されており、認知症はすべての医療者に対応が求められる疾患です。

病院においては身体機能・認知機能を低下させずに、患者さまとそのご家族に安心して入院生活を送っていただくことや再び、住み慣れた地域で生活できるよう地域の医療や介護に引き継ぐ体制構築が求められています。

当院では常勤医が認知症サポート医研修を受講、修了したことを受け、認知症ケアチームを発足しました。チームは医師、認知症看護認定看護師、医療ソーシャルワーカー、看護管理者、薬剤師、管理栄養士、作業療法士の多職種で構成されています。認知症を持つ人や高齢者は、入院等の環境変化への適応が難しく、せん妄を発症したり、入院を機に認知機能の低下や認知症状が悪化することがあります。認知症ケアチームは身体疾患の治療が円滑に受けられるように様々な職種の専門的な視点を活かし、患者さんのそれぞれの問題に対し、主治医及び病棟スタッフと協力しながら入院生活の支援を行っていきたくと考えています。

また、認知症が疑われた場合の専門医療機関等の情報提供や地域での生活を見据えた、退院支援・調整も重要な役割であると考えています。当院は認知症専門医療機関ではないため、地域の皆様の力をお借りしながら、より良い医療提供や連携が行えるよう頑張っていきたいと思っております。何卒よろしくお願い申し上げます。



緩和ケアチームの紹介

消化器内科医師 大庭宏子

緩和ケアは、がんが進行した時期だけでなく、がんが見つかったときから、治療中も必要に応じて行われるべきものです。がんが診断されたときの不安や治療の間の食欲低下、疼痛に対し、緩和ケアの考え方を、診断されて間もない時期から取り入れることで、こうした症状を緩和しながら日常生活を送ることができます。

ターミナルステージでは症状緩和だけでなく、それぞれの患者さんの生活が保たれるように、医学的な側面に限らず、幅広い対応が必要となってきます。

自分らしく過ごせるように支援するのが緩和ケアの役割です。十三市民病院の緩和ケアチームは医師5名と看護師7名、管理栄養士、薬剤師、地域医療連携看護師の計15名で活動しています。がん性疼痛のコントロールだけでなく、昨年よりがん治療をされている方のコミュニティスペースとなるがんサロン「サロン・ド・JUSO」を立ち上げました。がん治療をされている方に対しての注意事項、治療による食欲低下に対しての栄養補助剤の紹介、試飲会などを行い大変好評でした。

またがん治療をされている参加者のミーティングでは治療に対しての不安や要望などを聞くことができ、私たちも勉強になりました。今年度もまた開催する予定としております。また今後はがん性疼痛だけでなく慢性疼痛に対しても対応していく予定ですので何卒よろしくお願い致します。

認定看護師の活動紹介

認知症看護認定看護師 江口啓子

私は「認知症看護認定看護師」の江口啓子です。2016年7月に認定看護師資格を取得し、2年目となります。

現在は8階病棟に所属し入院患者様のケアをとおして認知症看護の実践や指導、相談を行うとともに、院内活動として、精神科リエゾンラウンド、転倒予防チームラウンドに同行し、せん妄や認知症ケアの啓発を行っています。

当院の、基本方針であり、また役割でもある「地域医療への貢献」としては認定看護師オープンセミナーで、地域の医療専門職の方々に向け講義をおこなっています。セミナーでは看護師として、認知症の病態を踏まえた上で、症状の理解やアセスメント、ケアの工夫を学べる内容になるよう企画しています。また、交流会として、地域の施設の皆様との日頃の看護上の課題やそれぞれの所属の情報交換が行える場とさせて頂いています。

今後も地域の皆様のニーズを伺いながら研修企画していきたいと考えています。

昨年度より参加させていただいている地域連携会では、地域の方々との情報交換ができ、毎回有意義なものになっています。認知症の方が入院されると様々なストレスを抱えられ、BPSDの悪化やせん妄発症が多くなります。本来の力を発揮できない方も多くいらっしゃいます。認知症ケアでは生活の継続性が重要とされ、入院前の生活面での情報が必要です。

今後、地域の皆さまのお力を借り、連携を強化し認知症を持って入院される患者さまが少しでも安心して治療を受けていただけるよう取り組んでいきたいと考えていますので何卒よろしくお願い申し上げます。



